

## ボランティアの養成・研修事業

### 「ボランティア養成セミナー」

#### 1. 趣 旨

国立赤城青少年交流の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子供たちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術について研修する。

#### 2. 事業の概要

##### (1) 期 日

令和5年5月27日（土）～5月28日（日）【1泊2日】

##### (2) 参加者

- ①参加対象 高校生以上
- ②参加人数 27名（応募34名 キャンセル7名）
- ③参加者の内訳 高校生17名、大学生8名、社会人2名、その他（職員1名）

#### 3. 企画運営のポイント

- (1) ボランティア活動を行う上で、必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるように計画した。
- (2) 法人ボランティアとして活動してきた先輩ボランティアが、自らの体験談を発表したり、プログラムの一部を担ったりすることで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせるとともに、より身近なものとしてとらえられるようにした。

#### 4. 日程

	午 前	午 後	夜
5月27日 (土)	開会行事 演習「ボランティア活動 の技術」 講師：当所職員 中谷 仁 講義「青少年教育」 講師：文教大学 准教授 青山 鉄兵 氏	講義「ボランティア活動 の意義」 講師：文教大学 准教授 青山 鉄兵 氏 演習「ボランティア活動 の技術」 講師：当所職員 中山 太平	説明「青少年教育施設にお けるボランティア 活動」 講師：法人ボランティア 長岡 一太 根岸 月叶 根岸 咲代子
5月28日 (日)	講義「救命救急法」 講師：前橋市消防局北消 防署 署員 講義「青少年教育施設の 現状と運営」 講師：当所職員 次長 齊藤 裕徳	説明「法人ボランティア 登録制度」 講師：当所職員 杉山 直弥 閉会行事	

## 5. 主な活動内容



ボランティア活動の技術



ボランティア活動の意義



ボランティア活動の技術



青少年教育施設のボランティア



救命救急法



青少年教育施設の現状と課題

## 6. 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足26名(96%)、やや満足1名(4%)

### (2) 参加者の声

- 実践的な講義や実習が多く、すぐにボランティア活動に活かせそうだった。
- アイスブレイクの活動を通じて、初対面の人達とも仲良くなれた。
- ボランティアへの興味が高まった。
- 野外炊事やアイスブレイクでは参加者、指導者の立場が学べてよかった。講義もすごくよかった。
- 友人でも先生でもない私達のナナメの関係が子供達にとってとても大事だということがわかった。
- 法人ボランティアがどのような活動をしているのか、また国立赤城がどのような事業を行っているのかを知ることができ、今後参加する具体的なイメージが持てた。
- これからボランティア活動をやっていこうと思えた。

### (3) 成果

- ボランティア活動に対して関心が高い参加者が多く、各種プログラムに熱心に取り組んでもらえた。また、アイスブレイクや野外炊事では参加者自身が楽しみながら交流することで、活動の意義や成果を実感することができた。

### (4) 課題

- 高校生の参加者が多かったが、高校生と大学生の活躍の場の違い、その違いを踏まえて身に付けてほしいことは何かといったことを今後検討する必要がある。
- 参加者の立場とスタッフの立場は異なること、今後はスタッフの立場として事業に参加するのだということを伝える場面が不足していた。

担当：杉山 直弥、中山 太平、中谷 仁